

まちの顔



志賀天友太鼓



西湊鬼衆太鼓



石崎豊年太鼓 響友会



香島津太鼓 息吹



12月5日(日):サンビーム日和ヶ丘

脈動 鼓動 躍動する

和太鼓の世界

〜 吠えろ 太鼓 〜

七尾太鼓打連盟 会長葛原伸二さんが「市民に太鼓のすばらしさを知ってほしい」という思いで始めた「吠えろ 太鼓」。開催は3年ぶり4回目。能登地区から8団体120人の太鼓演奏者が参加。会場は立ち見客が出るほど超満員。太鼓に魂を込め打ち鳴らす演奏者。その迫力に圧倒される観客。アンコールが出るなど、会場は熱い和太鼓の世界に包まれる。七尾で伝統文化の代表といえる「祭り」を思い浮かべるが、それに匹敵する迫力ある和太鼓演奏に今後注目したい。

第13回定期公演 七尾市民劇団 劇団N



熱演する川端さん



台詞を確認する出演者

夕鶴



語り手の仁介さん



舞台袖で待つ子どもたち



12月15日(水):七尾サンライフプラザ

今回の『夕鶴』は平成14年にも公演した。出演する役者は大人から中学生、小学生の23人。劇団キンダースペースの協力により8月から稽古を開始。大人と子どもが出演するため、工夫をしながら稽古を積んできた。本番数日前。衣装を着て、本番さながらの稽古が夜遅くまで続く。橋本わかかなさんは「授業中寝ちやいそう」と言いながら舞台上立つ。公演は3回。最終日は、平日にもかかわらず満席。会場からは割れんばかりの拍手。すべてを出し切った出演者たちの顔は笑顔に満ち溢れる。平成9年にスタートした七尾市民劇団、劇団Nの『演劇のまち七尾』の顔として、これからも人々に感動を与え続ける。



11月28日(日):七尾市役所

『七尾検定』は今回で2回目。緊張した面持ちで勉強を積んできた受験者21人。一般参加者に交じって受験したジュニア参加者もいた。試験を終えた受験者は「難しいとはわかってたけど、ここまで難しいとは」。担当者は「今後はもっと気軽に参加できるよう、易しい問題集などの制作も考えてみたい」。今回の合格発表は12月下旬に予定。はたして、結果はいかに！

七尾検定2010
はたして、結果はいかに！



11月27日(土):七尾美術館

3年前から行っているこの企画。小さな子どもがいる家庭はなかなか行けない美術館。閉館後、そういった家庭限定で「ちょっとおどけても、ちょっと走ってもいいから鑑賞してほしい」という企画から実施。「あっ、ライオンさん！」と美術館で聞くことのない子どもの元気な声。けれども今日だけは安心して鑑賞できるお母さん。この試みが家族全員に「ひとときの幸せ」を与えている。

ナイトミュージアム(七尾美術館)
いつも静かな美術館今日はちょっとおどけても…



平成22年度人権啓発標語 特選受賞者
北星小学校6年 岩崎駿樹 御城中学校2年 小川和也

表彰式では、人権啓発標語小学校応募総数495点の中から岩崎駿樹君、中学校応募総数494点の中から小川和也君が見事特選を受賞した。引き続き、仲島正教氏(教育サポーター)による講演会が行われた。実体験の話を中心に、終始距離を感じさせないテンポある講演。「優しさ」という温かい貯金の話に涙ぐむ来場者。この講演が人権をより高い認識・理解することを導く機会となった。

人権啓発標語表彰式
みんなで作ろう 人権の世紀



12月4日(土):中島文化センター

約100人の親子連れが参加。中島地区で活動する『トトロのお話し会』の行事を楽しみにする親子のファンは多い。中島保育園のママ友達同士で参加した打田紀子さんは「いつも楽しみで、近づく子どもから行こうねと言うんです」と話し、長男の詩音ちゃんは「お話が楽しかった。次も必ず行きたいね!」と。『トトロのお話し会』の活動が子どもたちの夢をもっと大きくする原動力となっている。

第15回クリスマスのおはなし会
親子で楽しむ 楽しいひととき



12月12日(日):鵜浦町

今年も鵜様を羽咋市にある気多大社へ運ぶ『鵜祭り(鵜様道中)』が行われた。早朝のピ〜んと張り詰めた空気の中、3人の鵜捕部が、鵜宿(鵜浦町磯野さん宅)の神棚に手をあわせ出発。「ウツリベー」の掛け声が聞こえると、住民が家から出て来て「鵜様」に手を合わせたり、鵜捕部にさい銭を渡したりする姿が見られた。『鵜祭り(鵜様道中)』は年の瀬の風物詩。鵜浦町の住民は、鵜様を拝んで新年を迎える準備をする。

国指定重要無形民俗文化財 鵜祭り(鵜様道中)
ウツリベー ウツリベー



12月5日(日):矢田新町会館

地域住民の防災意識を高めるため、袖ヶ江地区町会連合会自主防災会が企画実施した。参加した住民約100人。防火の講義やAED機器の実技、実際の消火器を使用した消火訓練など多様な訓練を行った。「主要な場所に消火器を設置したり訓練を行ったりすることにより、防災意識が高まり、いざという時に役に立つ」と話す北野慶嗣会長。すべて消防署などに頼るのではなく、できることは地域で行うことが住民の連帯感につながることを感じた。

袖ヶ江地区防災訓練
守ろうがまち 災害に強いまちづくり